

分考通信

第十二号

2018年2月号

その2

文責
中伸一



地域ケア会議が開催

1月26日金曜日 清水分校図書館にて地域ケア会議が開催されました。この会議において、3年生6名が1年間総合的な学習の時間で学んできた『福祉』について学習発表を行いました。

これまでの発表では、原稿を読んでいたが、3年間の集大成として原稿を持たずに、参加者に語りかけるように発表を行いました。多少の緊張はあったものの分校で過ごした3年間で成長した姿を見ることができました。

また、今回の学習で地域振興や高齢化など清水地域が抱える様々な問題を改めて考えるよい機会となったとともに、若い世代が担うべき事についても話し合うことができました。

卒業してからは清水を離れていきますが、何らかの形でこの地域に貢献できる社会人になろうと決意していました。



若い世代が果たす役割
の輪郭を定める
の地域貢献

タイ留学生との交流

タイからの留学生が家庭科の授業の中でタイ料理を教えるに来てくれるようになって10年になります。

今までにトムヤンクンやパッタイなど、生徒にとってはなじみのない料理や自分の名前をノートにタイ語で書いてもらったり、タイ語を教わったりと楽しい交流が続いています。

またこの7年前からは、タイの先生方も春に道中のダムの桜を楽しみに学校を訪ねてくれます。皆さん必ず、学校がともきれいに掃除されていること、ごみが落ちていないことにびっくりされます。また来られると必ず先生方にタイの学校に来て下さいとお誘いを受けます。

その他にもタイの日本語を学ぶ高校生とも年に数回手紙の交換をして、タイの高校生が上手に日本語を書き、また先日はネットを使って直接タイの高校生と交流しました。

写真はフォンちゃんこと、マピンヤー・ハンチャイさんです。彼女はNPO法人国際セーヴアの会の交換留学生として日本に昨年3月より1年間滞在しています。分校には10月に日本語を学ぶために、11月の文化祭を楽しむに、そしてこの2月に2年生との交流のために3回目の訪問となります。2年生の家庭基礎の授業でハンバーグ作りを行いました。写真からも分かるように大変楽しくすごしたようです。これからもタイとの交流が生徒の刺激となってくれればと思います。



学校統廃校を考える全国交流集会に参加して

中伸一



2月18日(日) 愛知県東海市であった「学校統廃校と小中一貫教育を考える第8回全国交流集会」に参加しました。その内容を報告します。

全体会のパネルディスカッションは「子ども・地域・住民にとって、学校とは何か」と題し、愛知県瀬戸市の住民の方の「小中一貫校を考える運動とその後の展開」、兵庫県川西市の教育を考える会の方の「川西の小学校統廃校計画を凍結させた取り組み」の報告を聞きました。パネルディスカッション最後の質問コーナーで、パネラーの茨城県つくば市の教育長さんが、「社会力」(社会力とは社会を作り、作り変えていく能力の意味)を育てることを軸に地域の教育改革を開始するとの発言にはたいへん興味を持ち、「社会力」について調べたいと思いました。

午後からの分科会は、高校再編・統廃校に対する地域の運動について交流しました。長野県・名古屋市・京都府・大阪府からのレポートがありました。京都府の「丹後・与謝の高校再編を考える会」のとりくみを取り上げてみます。2015年から京都府教委が「生徒減少期における府立高校の在り方検討会」を皮切りに「府立高校減らし」を進めるとの内容でした。京都丹後地方にある網野高校と久美浜高校を、宮津高校と加悦谷(かやだに)高校をそれぞれ学舎制(和歌山県で言うキャンパス制)とする。また峰山高校弥栄(やさか)分校・網野高校間人(たいざ)分校・宮津高校伊根分校を統廃校して弥栄(やさか)校舎にフレックス校(京都市にフレックス校として新設された府立清明高校は昼間二部制定時制となっている)として新設するとの内容です。それが2017年3月9日に府教委の議決が強行されたことです。3分校の統廃校について「考える会」に寄せられた地域の保護者や住民、教育関係者から、「子どもが減る今こそ、高校も少人数できめの細かな教育を」「支援必要な生徒に、少人数で丁寧な教えられる教育環境整備を」「通学費、通学時間の負担を少なく」「急いで決定せず、十分な時間をかけて議論できる保障を」「高校問題は地域の全体の問題、高校が消えれば地域の元気もなくなってしまう」など、様々な思いや願いが寄せられています。

京都府教委の財政問題と京都丹後地方の学校統廃校による地域コミュニティの心配を単刀直入に話し合う機会を持つことを期待します。この会に参加して全国の学校統廃校の様子を聞く中で、立場の違いを越えた中で話し合い理解を深めることの大事さを感じています。